

# 自由律俳句協会ニュースレター

発行：自由律俳句協会

編集責任者 吉本知裕

## 2019年 自由律俳句協会 それぞれの誓い

### ◆ 年頭のご挨拶 会長 佐瀬広隆

昨年自由律俳句協会が発足し3か月がたちました。「できることから一つずつ」を掲げ、ニュースレターの発行、ホームページの拡充、自由律俳句に関する書籍の電子化の試み、文学のフリーマーケットの訪問等と活動を続けてきました。

本年は、文学のフリーマーケットの具体化、そして、活動方針に掲げられた次の2つを実行してゆきたいと思います。

#### ①過去の自由律俳句に関する書籍の収集と保管・蓄積

「層雲」の資料を、会員の賛同とご協力を得て電子書籍化を計画しています。

#### ②自由律俳句の手引きの作成

何人かの人に依頼をし、体験を含めながら、その人なりのものを書いていただきます。手始めに私（佐瀬）からとのことなので、ニュースレターに何回かに分けて報告したいと思います。入門書については、過去に荻原井泉水の著作があります。今回作成するものは、完成したものではありませんが、現在の作家の生の体験から書かれたものを提示します。欠点や思い込みの部分はありますが、高所ではない、同じ地平の馴染み深い手引きになるとと思います。

歩みは遅くとも、一つ一つ着実に実行してゆきます。新しく生まれた協会を見守り、育てていって頂ければ、幸いです。

### ◆ 今年の抱負 副会長 中塚唯人

今年はまずは会員を増やし、『自由律俳句協会』として確固たる地位を築くことに専念すべきことと思います。定型には『現代俳句協会』『俳人協会』『日本伝統俳句協会』という立派な協会があります。また新しく『口語俳句振興会』も設立されました。これに並び立つ『自由律俳句協会』を世の中に広める必要があります。そして新しい『自由律俳句』＝世界俳句と、定型俳句＝伝統俳句とが力を合わせ、ユネスコ世界文化遺産となるべく努力をするべきと思います。

そのために「自由」の旗の下に一致団結して、総ての自由律人が大義のために結集

しなければなりません。そういった協会を作ろうではありませんか。

◆ 新しい年を迎えて 事務局 白松いちろう

平成最後の亥の年を迎え、新しい時代への変化を期待しているところです。昨年は、念願の「自由律俳句協会」のスタートを切ることができました。会員も着実に増える方向にあり感謝しています。

今年は協会として、自由律俳句を次世代に繋げるためには何をすべきかを、皆さまと共に考え、共に具体的な行動を起こす年です。事務局あてに、どしどし建設的ご意見を発信してください。貴重なご意見を繋ぎとめて、次なる一步を共に踏み出して参りましょう。

◆ トンネルを抜けて 会計 平岡久美子

自由律俳句協会がやっとトンネルを抜ける事が出来ました。あとはひたすら走り続けなくてはと思います。会計としましては会費 3,000 円はぎりぎりの設定になっております。現在半数の方が振り込んで下さいました。ご協力お願いいたします。

◆ 電子化の仕組みを確かなものに 企画・広報 新山賢治

各地で地道に句作に励む人々にとって、安心できる「空気」のような拠り所になれるように「自由律俳句協会」を確かなものにしていきたいと思ひます。協会の一歯車として、この一年は自由律俳句の原点である「層雲」を創刊号から丁寧に一冊ずつ電子図書に変換し、未来へ連なるデジタルワールドの中で永久保存版とすることに力を傾注したいと思ひます。皆様の身近に、この句集・句論を電子化し、未来へ残したいという財産があれば声をかけてください。「小さな結実を重ねていけば、皆が振り向いてくれる」これを今年の指針とします。

◆ 自由律俳句年鑑の発刊を 企画・広報 そねだ ゆ

私が、初めから描いていましたのは、参加者の作品をいただき、一覽として皆で投票して、上位句作家には褒賞を、そして、投句いただいた会員全員の句を 10 句 1 頁の年鑑にする。上位句には、それぞれの上位について、選句理由と自解をいただいて、年に一回発刊するという、基本的考えがあります。委員のご意見をいただいて、まとめて制度化したいと考えています。

◆ 今年、私が取り組むこと 企画・広報 寺田和可

協会の今後の活動を考えるうえで、若い世代の自由律作家の声を集めたく、今年はヒヤリングなどの機会を探っていきたいと考えています。また、必要な時に必要なだけプリントして作る「オンデマンド小冊子」を構想中です。データを作っておいて、イベントなどの際に配布分をプリント・製本します。まずは、お金をかけずに自分で

作れる A5 判か B6 判の中綴じ冊子にチャレンジするつもりです。会員の皆様には、ご相談やご協力のお願ひなど、ご連絡さしあげることがあるかと思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。小さなものでも一つひとつ形にしていけたら、と思います。

#### ◆ 文学フリマを「核」にイベント、出版を 企画・広報 野谷真治

平成から、新しい年号へ変わる今年、俳句界は、なにか変化が起こるだろうか。私個人は、今年も地道に、自由律俳句の作品を作り、活動して行きたい。5月と11月に開催予定の文学フリマへの参加が検討され、他にも、自由律俳句に関するイベントや出版等を考えてみたいと思う。

自由律俳句協会においては、自由律俳句を、今後とも大切にしていきたい。

#### ◆ 若い才能の発掘を 企画・広報 吉本知裕

若い人たちが自由律俳句への最初の一步を踏み出すための手助けをしたい、そう考えています。日々飛び交っている SNS のつぶやきをひと工夫するだけで立派な自由律俳句が生まれると思います。そのテクニックさえ身に着ければ、才能あふれる若い俳人たちが誕生するはずです。若い才能の発掘に取り組むことが今年の目標です。もう一つは、自ら作句にもう少し意欲的に取り組みたいと考えています。

## 文学フリマとは？

ニュースレターNo.2に掲載されたルポ記事「文学フリマ」について、その概要など改めてご紹介します。「文学フリマ」とは、言葉や文化や表現を愛する人々が集う入場無料の文学作品の展示即売会です。ここで謂う文学とは、自分が文学と信じるものならこれまでの文学の概念にとらわれず発表が可能です。作り手と読者が直接コミュニケーションできる場ともなっています。文化や表現を通じ、同じ空間で楽しむことができます。これまで通算 57 回、現在は全国 9 都市で年 10 回開催されています。昨年 11 月 25 日 TRC 東京流通センターで開催された文学フリマ東京では、約 1000 ブースの出展があり、国内最大級の文学の祭典となりました。

自由律俳句界としては、**海紅社**が唯一参加されており、若手俳人の活躍の場の一つとなっていることは注目に値します。自由律俳句協会としても 2019 年 5 月 6 日（月・休日）の「文学フリマ東京」の参加に向けて、申込み中です。各会員・グループの方の中で、作品の展示や団体の紹介チラシなどの設置を希望される場合、自由律俳句協会へ書面またはメールでお知らせください（出展内容：書籍、チラシなど；希望販売価格—なるべく安価か無料が望ましい—；連絡方法等）。参加は本来有料ですが、今回、会員及び団体は無料参加とし、費用は自由律俳句協会とご寄付で賄いたいと考えています。（記：白松いちろう）

参考資料：「文学フリマ」ホームページ <https://bunfree.net/attend/>

## 自由律俳句への窓 その一 佐瀬広隆

自由律俳句についての手引きとなる文を綴るには、実際のところ自由律俳句についての見識が浅いのが実情です。が、今こうして、三十年ほど途切れず俳句を続け、俳句表現が私の生活の一部になっています。この道筋を書いてゆくことで、俳句の手引きに繋がると考えています。

### 1. 初学時代

俳句を始めた動機は父にあります。父は教員でしたが、短歌、俳句、美術評論、陶芸と芸術の道一筋に生き抜きました。その激しい父の生き方をまともに受け継ぐ子等はなく、私は、理系の大学へ、音楽を趣味とした道を選びました。機会あるたびに、父は芸術を熱く語り、俳句についてもよく聞かされました。父は亡くなる直前、寂しげにぼつり「俺の後に続く子等はいないな」と。

そっぽを向いていて父を知らなすぎてきた、少しは父を理解しようと思ったことが、私が俳句を試みようとした動機です。父の見舞い入院先の銚子へ通いその電車の中で、自由律俳句もどきの一行を書き始めました。

父がなくなって一か月後の六月、書き溜めた中から二十句を「層雲」の渡野辺朴愁先生へ手紙にしました。

その中で二以上の印があったものを挙げてみます。今みれば、句点がたくさん入った俳句とは言い難い一行の文章です。しかし、朴愁先生は私の伝えたい気持ちをくみ取り、優しい眼差しの添削をして下さいました。

**枯れすすきたっていて、父の白い手**

→枯れすすき見て父の白い手おもう

父は喉頭癌でした。年齢と体の状態から手術は無理、放射線治療に通いました。杖をついて見送ってくれた父の手は白くふくれていました。惚けたすすきを目にしたの句でした。

**まなこ、老いてもかまきり**

→老いてもかまきりのその眼

ベッドに伏せていても、父の眼光は鋭いものでした。視点が眼の鋭さに向かうように直されています。

**朝もやたちこめていて畑の畝は遠い連山**

→朝もやたちこめている畑の畝

「連山は、説明。どう感じたかは、句を見る人に委ねたほうがいい」と。

## 大空 つるべおとしのひばりの声

### 夜汽車とまれば、蛙の声の合唱

→夜汽車とまって蛙の声の合唱

父を見舞い後、帰りの普通列車に乗って千葉へ夜帰ってきました。八日市場辺りで電車が停車すると、周りはたんぼ、真っ暗な闇の中から、蛙の声が飛び込んできました。

「実際にあったように、とまってドアが開いた時、蛙の声がしていたそのままを。」

### 夜更けていて、蛙の声が父の供養

→<sup>①</sup>夜更けて<sup>②</sup>父の供養のように<sup>③</sup>蛙の声

「①—②—③の眼線に見てください。」

### 父の杖、大切にしていた杖を棺に入れる

→大切にしていた杖を棺に入れる

「自分の思いに囚われるのではなく、自分を客観視するもう一つの自分の眼で句に」と。

### 母の話、父の話ばかりあふれ出る

→母の口から父の話ばかりあふれ出る

「視線が、母の口元にうつり、母の思いがあふれ出ている様がでている句になっています。」

### まっすぐに落ちてくる雨の音が哀しい

「心情がすっきり素直に出ています。」

### 線香二すじ、いつも笑っていて父

→線香二すじいつも笑っている遺影

### 私も父の道を、長い細い道を行くとする

→私も父の道、長い細い道行くとする

「心情を買います。素直な気持ちが出ています。」

「御両親の血を継がれて、始めとはとても思えないすばらしい詩感です。どうかお父上様の生きた道をしっかりお継ぎください。期待しています。」——朴愁

これから、三句が採られ、長く細い俳句の三十年が始まりました。

朴愁先生の添削は、俳句らしく作ろうとはせず、自然で素直な一行になるようにされていきました。朴愁先生の俳句に対する姿勢が優しい眼差しで溢れている添削だったと今になって思います。

## 新たに会員になられる方を募ります！

「自由律」の活動を文学史に深く刻むために、主張の違いを乗り越えて「ゆるやかな結束」を呼びかけ新たな会員を募ります。

◆年会費 個人 3,000 円 結社・グループ会員 3,000 円 学生会員 1,000 円

◆申込先 〒270-2329 千葉県印西市滝野 2-6-16 白松いちろう方

自由律俳句協会事務局

e-mail : [siroo@mist.ocn.ne.jp](mailto:siroo@mist.ocn.ne.jp)

※入会申込書は事務局宛てご一報下さい。 メールまたは TEL&FAX 0476 - 80 - 9177

なお、自由律俳句協会ホームページからもダウンロードできます。

★12～1月には、個人会員 5 名、結社・グループ会員 1 団体が新たに入会されました。

協会を運営するために、以下の口座に会費納入を何卒よろしくお願ひします。

郵便振込口座 口座記号番号 00180-9-417884 加入者名「自由律俳句協会」

ゆうちょ銀行 記号 10050 番号 03963121 自由律俳句協会

※ゆうちょ銀行口座から振り替える場合は振込料が無料になります（回数制限あり）

★1月25日までに、個人会員 40 名、2 団体から入金がありました。また、山根基世さんより併せて賛助金を頂戴いたしました。ご支援感謝します。 (会計 平岡)

## 「結社・グループ一覧表」作成にご協力ください

広く「自由律」の活動を社会に伝えるための基礎になる資料として、「結社・グループ一覧表」を作成します。まず、ホームページに掲載し、各地の活動を報道機関などに広報する助けとしたいと考えています。

以下の項目について記載され、上記の自由律俳句協会事務局までお寄せください。

- ①結社・グループの名称(読み) ②代表者名 ③発行誌・会報・句集(表紙写真を添付)
- ④会費 ⑤ホームページ・SNSなどの情報 ⑥連絡先 ⑦結社・グループ案内 200～250 字 ⑧上記内容の確認等のため、協会からご連絡を差し上げる場合の問合せ先

自由律俳句協会 ホームページをご活用ください。

<https://www.自由律.com/>